

## ●事例紹介●

# 新潟大学キャリアアセンターにおける インターンシップの取組

多田 夏子

(新潟大学キャリアアセンター就職課長)

はじめに

### 一 導入の経緯

本学で実施しているインターンシップは、二通りのものがある。

各学部が実施している、三年次生対象の単位認定を行う「インターンシップ」と、キャリアアセンターが実施している「キャリアインターンシップ」と名付けた、主に学部二年次生と大学院一年次生を対象にした単位認定を伴わないインターンシップである。

ここでは、キャリアアセンターで実施している「キャリアインターンシップ」について紹介したい。

本学では、平成一七年度四月に、就職部を発展的に改組し、「キャリアアセンター」を設置した。

これは、三・四年次生対象の就職支援に加えて、既に取り組んでいた低学年次からのキャリア意識形成支援に一層力を入れること、及びそれを明確にするためのものであった。

低学年次対象の「キャリアインターンシップ」の導入については、就職部を設置した平成一一年度に検討を開始している。

## 特集・インターンシップ

当時既に授業の一環として三年次生対象のインターンシップを実施している学部もあったが、学部のインターンシップとは別に、低学年次の早い段階からのキャリア意識形成支援として、実際の仕事や職場の状況体験させることがより学生のキャリア意識形成に効果をもたらすものであるとの考えから、当時の就職部会議において二年次生を対象とするインターンシップの導入及び実施方法の検討を始め、平成一三年度からキャリアインターンシップとして実施した。

導入当時は、インターンシップという制度そのものについて、企業側・学生側ともに関心が薄く、受入れ企業の確保のため、大学側と企業側の代表者として連絡会議を設置し、その目的や趣旨を説明したり、企業側の要望を聴いたりしながら理解を得て、ようやく二三の企業から学生受入れ承諾の回答をいただいた。

参加学生についても同様で、その目的や参加して得られる効果等の周知を行い募集した結果、一四名から参加希望の申し込みがあった。

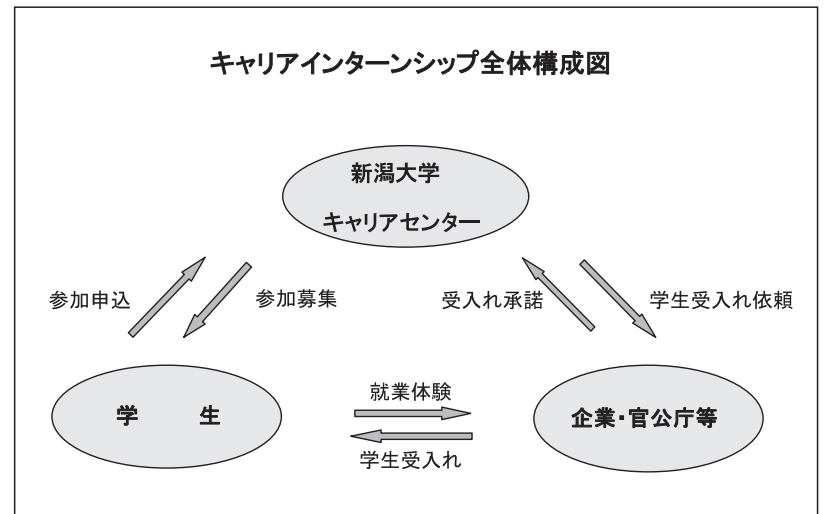
最終的には、企業の受入れ可能人数や受入れ希望学部、学生の希望業種等により、八名の学生を八企業に派遣するところからのスタートとなった。

キャリアインターンシップでは、学生が企業の現場でその会社の業務の流れを紹介してもらいながら就業体験を行う。つまり、業務の一部分の手伝いをするアルバイトとは異なり、会社の事業の展開とか仕事の連鎖とかを体験的に理解できるなどの教育効果が高い。

また、自分が想像していた職場のイメージと現実とのズレを認識できると同時に、職場の雰囲気や、職業選択のための情報や、職場におけるコミュニケーションの必要性を実感したりと、将来のキャリアを考えていく上での貴重な体験の場となっている。

さらに、自分が目指していた職業が果たして向いているのだろうか、自分に適している職業というものはどういうものか、といった自分を振り返り、見極める良い機会となり、これから始まる就職活動に向けて、自分が何をしなければならぬか、希望する職業に就くためには何を身につけなければならないかなどに気づくなどの効果が期待できる。

以上のように、二年次において、低学年次対象として実施するキャリアインターンシップに参加し、その経験を踏まえて翌年度、学部の専門性と関連する三年次生対象のインターンシップに参加することにより、一層明確な職業観



や自己分析・自己理解を段階的に深めることが可能となり、将来の職業選択に際して正しい判断ができるものと期待している。

また、詳しいことは後述するが、終了後に実施する報告会において、キャリアインターンシップでの経験・感想を発表することにより、三年次以降の学生生活を充実して過ごすことに繋がるものと確信している。

二 キャリアインターンシップ実施状況

既に述べたとおり、本学のキャリアインターンシップは、平成一三年度から、参加学生八名、受入れ企業七企業からスタートしたが、徐々に、学生・企業両方から、低学年次からのキャリア意識形成が必要であるとの理解が深められ、キャリアインターンシップへの参加人数・受入れ企業とも年々増加してきている。

参加する学生の増加に伴い、学生からの希望業種や職種も多様化してきており、業種によっては学生の希望に偏りが見られ、また、企業の受入れ人数にも限りがあることから、学生の配属にあたっては、毎年苦慮しているところである。

新潟大学キャリアインターンシップ受入れ企業・参加学生数の推移

1 受入れ企業と学生の内訳  
 キャリアインターンシップは平成13年度から実施し、18年度で6回目となる。  
 年々、受入れ企業と参加学生は増加しているが、特に官公庁への参加学生が例年同様に多い。  
 また、マスコミへの希望が多いが、受入れ人数枠が少なく、その分、流通・サービス等への派遣が多くなっている。

受入れ企業	平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度	
	企業数 (社)	派遣学生 (人)	企業数 (社)	派遣学生 (人)	企業数 (社)	派遣学生 (人)	企業数 (社)	派遣学生 (人)	企業数 (社)	派遣学生 (人)	企業数 (社)	派遣学生 (人)
製 造 業			1	1	4	6	5	7	2	3	3	5
建 設 業	2	2	2	3	3	3	2	2	1	3	1	2
流通サービス業	4	4	4	7	8	11	6	11	9	16	12	26
情報・ソフトウェア関係	2	2	3	4	3	6	3	5	2	4	2	4
印 刷			1	1	2	3	2	3	1	1	1	1
マ ス コ ミ			2	3	2	3	2	3	2	3	1	1
出 版			1	1	1	5	1	5	1	8	1	7
福 祉					1	1	1	2	1	2	2	5
衛 生 検 査					2	6	4	10	9	13	4	7
官 公 庁					4	6	8	11	7	24	7	27
エ ネ ル ギ ー							1	3	1	1		
金 融 ・ 証 券							1	1	2	5	4	5
団 体 等									2	5	2	5
合 計	8	8	14	20	30	50	36	63	40	88	41	95

2 部局別参加学生数の内訳  
 インターンシップへの関心が学生の中に少しずつであるが高まってきており、参加学生も年々増加している。  
 経済学部が、17年度から参加学生数が増えてきている。

学部・研究科	平成13年度 (人)	平成14年度 (人)	平成15年度 (人)	平成16年度 (人)	平成17年度 (人)	平成18年度 (人)
人 文 学 部			2	8	9	12
教育人間科学部(教育学部)	2	3	4	14	16	17
法 学 部		1	5	7	4	9
経 済 学 部	2	6	10	9	25	31
理 学 部				2	3	1
医学部保健学科			6	10	5	6
歯学部口腔生命福祉学科					11	8
工 学 部	2	7	5	5	3	2
農 学 部	1				7	5
教育学研究科					1	
現代社会文化研究科				1	1	2
自然科学研究科	1	1	12	5	1	2
合 計	8	20	50	63	88	95

受入れ企業とのマッチングについては、一人でも多くの

学生が参加できるように、就職課員が学生一人一人と面談を行い、学生がイメージしている職場や、キャリアインターンシップでやってみようかなどをきめ細かく聴き、希望内容と企業の受入れ条件等を考慮しながら、できる限り学生の希望に添うよう配属することを心がけている。しかしながら、前述したように、必ずしも希望する企業へ配属できない学生もあり、受入れ企業及び人数の拡大が今後の課題となっている。

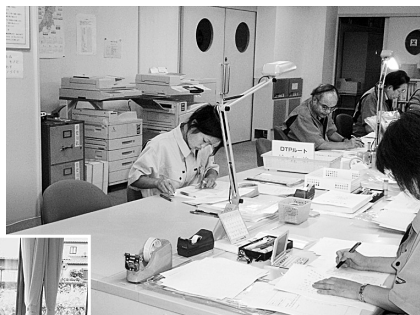
参加学生には、参加動機やインターンシップで何を学びたいかなどを事前レポートの形にまとめさせ、事前に受入れ企業に送付し、企業での指導等の参考資料として活用してもらっている。

また、キャリアインターンシップを実りあるものにするために、参加するに当たったの留意事項等についてガイダンスを行ったり、マナー講座(礼儀作法や身だしなみなど)を実施している。

さらに、学生を企業に送り出すだけでなく、キャリアセンター職員が、受入れ企業に向き、学生の実習の様子を企業から聴いたり、現場で学生に声をかけるなどをすることも学生の意識を高める上で重要であり、可能な限り派遣

実習風景

企業に出向くようにしている。



(印刷・出版社)



(医療福祉介護施設)

キャリアインターンシップ終了後は、「体験報告会」を開催している。この報告会は、実際に参加してみて、その中から得たものや気づいた点、今後の抱負等感想を発表すると同時に、キャリアセンター運営委員会から、キャリアインターンシップの経験を生かした今後の学生生活の過ごし方等についてアドバイスを行っている。

また、他の学生の感想を聴くことも、キャリアインターンシップを振り返り、今後の進路選択についての判断材料の参考となるものと期待している。

本報告会は、次年度に参加しようと考えている一年次生も対象としており、広く参加を呼びかけている。

毎年、今後のキャリアインターンシップの実施計画の参考とするため、参加学生及び受入れ企業にアンケート調査を実施している。多くの意見が寄せられているので、その一部を紹介したい。

【参加学生からの意見・要望】

①参加した動機

- ・公務員（県庁）を志望しており、行政の仕事の内容について知りたかった。
- ・自分の専門外の分野に興味があり、違った視点から現場

を知りたかった。

・将来の自分の職業というものに触れたかった。

②参加して得たもの

- ・仕事に対する考え方を改めさせられた。
- ・自分が進みたい職業に関する知識が不足していることに気づいた。
- ・職場の雰囲気、自分を見つめ直すきっかけとなった。
- ・専門だけでなく、広い視野が必要であることに気づいた。
- ・仕事への責任感やチームワークの大切さが理解できた。
- ・学生と社会人の違いを感じた。

③要望事項

- ・アルバイトとは違った経験が欲しかった。
- ・服装や髪型等、マナーの講習会をもっとやって欲しい。
- ・受入れ先の情報が不足していた。

【受入れ企業からの意見】

- ・将来のビジョンをしっかりと持っており、作業内容に対して意識が高く、熱心であった。
- ・積極的に参加し、コミュニケーションがよく取れていた。

- ・課題に対して積極的に取り組み、意見交換も参考となる話をしてくれた。
  - ・進んで仕事に協力しているという意欲が欲しかった。
  - ・メモを取る習慣が不足しており、話が十分に伝わらなかった。
  - ・マナーをもっと勉強してきてもらいたい。
  - ・事前準備不足が見られる。
- これらの参加学生や企業からの意見・要望や学生の事前・事後レポートを取りまとめた「キャリアインターンシップ報告書」を作成し、参加した学生に配付している。

この報告書により、他の学生がどのように感じ、今後どのように行動しようとしているかを知ること、自分自身を高めて行く刺激になるものと期待している。

また、報告書は、キャリアセンターに備え、これから参加を希望している学生への参考資料としても活用している。

最後となったが、前述のとおり、新潟大学でのインターンシップは、各学部でのインターンシップとキャリアセンターでのキャリアインターンシップの二通り実施しており、企業との連絡担当窓口も、各学部とキャリアセンターそれぞれで行っていたが、企業側からの要望もあり、平成一七

年度から、全学のインターンシップの事務手続窓口をキャリアセンターに一本化し、企業への受入れ依頼や連絡調整等を行っており、関係者から高い評価を得ている。

最近、外国人留学生の日本での就業希望の高まりから、外国人留学生対象のインターンシップについても検討を始めたところである。

今後、学生のキャリア意識形成のための効果的なインターンシップについて、検討を続けていきたいと考えている。